

2 各部署の活動状況

診療部	
内科系診療部	29
外科系診療部	35
中央手術室	38
薬剤部	
薬剤科	39
診療技術部	
放射線技術科	40
臨床検査科	41
臨床工学科	42
リハビリテーション技術科	43
栄養科	44
看護部	
総括	45
病棟看護科	
2病棟	46
3病棟	47
4病棟	48
5病棟	49
6病棟	50
外来看護科	
内科系	51
外科系（脳卒中センター（脳神経外科）、整形外科、皮膚科）	52
外科系（消化器疾患センター、救急外来）	53
人工透析室	54
医療安全管理センター	
医療安全管理室	55
感染制御室	56
診療支援部	
地域医療支援センター	57
事務部	
総務課	58
医事課	59

I 診療部

内科系診療部

スタッフの人員構成

(4月1日現在)

当医療センター内科系は、総合内科1名、循環器内科3名、消化器内科4名、腎臓内科3名、小児科2名、放射線科1名の計14名が常勤で診療にあたっています。

総合内科

スタッフ紹介



部長 吉井 博

診療内容

例えば発熱がある時、何かの感染症を疑うことが多いでしょうが、感染症以外にも血液疾患、血管炎、膠原病、悪性腫瘍なども鑑別疾患にはいります。総合内科の仕事の一つはこれらの診断にあり、診断がつくと治療は担当の専門科にお願いすることが多いです。

外来診療案内

- 初診及び再診外来：月～金曜日 午前
- エコー、腹部エコー、下肢エコー、甲状腺エコー、心筋シンチ、動脈CT：随時

診療実績

- 外来患者数（延名数）：2,918人
- 入院患者数（延名数）：5,285人

メッセージ

エビデンスに基づいたリスク評価と管理を行っています。

一般内科

スタッフ紹介



部長 伊藤 寿樹

診療内容

当科では、各臓器別専門診療科（たとえば、血液内科、呼吸器内科、消化器内科、腎臓内科、循環器内科、整形外科、皮膚科、精神科など）の領域を越えた複数の診療科にまたがる病気を総合的に診療することに積極的に取り組んでいます。

外来診療案内

○初診及び再診外来：月～金曜日 午前

診療実績

○外来患者数（延人数）：116人

○入院患者数（延人数）：659人

メッセージ

できるだけ迅速な精査・入院対応を心がけています。受け持ち患者様の急変などの際にまずご連絡いただけましたら、速やかに対応させていただきます。

健康管理科

診療内容

健康管理科は内科学を基礎に健康を科学的に把握し、総合的医学を実践する診療科として位置づけられ、予防医学の観点から、特に第一次予防と第二次予防としての名間ドックと健康診断を主体とした診療を行っています。

疾病の早期発見・早期対処から名間ドック・健康診断後の事後指導まで一貫した健康管理の体制を整備して受診者の満足度を高めることに重点を置いた医療を心掛けています。

外来診療案内

○外来診察：月～金曜日 午前

健康管理科の診療は月曜日から金曜日まで内科外来の診察室で実施しています。午前中は主に血液・尿検査や各種画像検査を進め、上部消化管内視鏡検査を含めた検査結果が出揃った時点で、受診者の方々に診察と結果説明及び名間ドック・健康診断後の事後指導を行っています。

日本名間ドック学会および労働安全衛生法に基づいた検査項目のほか、オプション検査として腫瘍マーカー検査や婦人科系がん検診に加え、頸部・腹部超音波検査、肺CT検査、頭部MRI・MRA検査や大腸内視鏡検査などの画像診断検査を数多く採り入れ、各臓器のがん検診に取り組んでいます。

診療実績

○名間ドック：227人

○各種健康診断：1,729人

メッセージ

健康寿命の延伸と生活の質の向上を目指して、自らの健康は自ら保持・増進させるとともに、人間ドック・健康診断を活用しましょう。

消化器内科

スタッフ紹介



副院長 藤田 浩



部長 恒吉 研吾



松元 琢真



岩田 大輝

診療内容

当科が扱う疾患は、部位別では消化管領域と肝胆膵臓域の二つに大別されます。その中でも腫瘍性疾患と炎症性疾患に分けることができます。

○消化管（食道、胃、十二指腸、小腸、大腸）

腫瘍性：食道癌、胃癌、大腸癌、胃ポリープ、大腸ポリープ

炎症性：逆流性食道炎、急性・慢性胃炎、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、腸炎

○肝・胆・膵

腫瘍性：肝臓癌（肝細胞癌、肝内胆管癌）、胆嚢癌、肝外胆管癌、膵臓癌

炎症性：急性・慢性肝炎（ウイルス性、アルコール性、脂肪肝など）、急性胆嚢炎・胆管炎、急性・慢性膵炎（アルコール性膵炎、自己免疫性膵炎など）

治療内視鏡としては、消化管の早期癌に対する内視鏡的切除術、消化管出血に対する内視鏡的止血術、総胆管結石に対する内視鏡的結石除去術、閉塞性黄疸に対する内視鏡的ドレナージ術（ステント留置）、超音波内視鏡ガイド下治療（胆道ドレナージ）などを行います。

外来診療案内

○初診及び再診外来（予約制）：月～金曜日 午前

○上下部消化管内視鏡検査（胃カメラ、大腸カメラ）、腹部エコー検査：月～金曜日

○胆道膵管造影検査(ERCP)、超音波内視鏡検査（EUS）：主に水曜日

○カプセル内視鏡検査、ダブルバルーン小腸内視鏡検査（随時）

○各種内視鏡検査は原則予約制ですが、緊急時にはその限りではありません。

○早急に検査、治療が必要な患者さんの場合には、時間外でも診療を行う体制をとっていますので、ご相談ください。

診療実績

○外来患者数（延名数）：7,095人

○入院患者数（延名数）：8,108人

○入院患者数（実名数）：646名

○上部消化管内視鏡：2,424件

○下部消化管内視鏡：684件

○超音波内視鏡検査：143件

○内視鏡的逆行性胆道膵管造影（ERCP）：115件

○内視鏡的大腸ポリープ切除術：286件

○内視鏡的粘膜下層剥離術（食道・胃・大腸ESD）：33件

○内視鏡的胃瘻造設術（PEG）：42件

○内視鏡的消化管出血止血術：72件

○内視鏡的ステント留置術（消化管・胆道）：97件

○内視鏡的異物除去術：13件

メッセージ

消化器内科で扱う疾患は、癌などの悪性疾患から良性の炎症性疾患まで広範囲にわたっています。早期癌に対する内視鏡的治療の他、進行癌に対する化学療法、炎症性腸疾患に対する専門的治療、便秘などの慢性疾患の治療など幅広く行っています。

診断・治療に難渋する患者様については、鹿児島大学病院消化器内科と密に連携を図り、患者さんにとって最良の医療を提供しています。

当院は日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本消化管学会胃腸科指導施設となっています。

循環器内科

スタッフ紹介



医長 重本 英二



月橋 洋平



稲田 悠希

診療内容

狭心症、心筋梗塞等の冠動脈疾患、心不全、不整脈、閉塞性動脈硬化症等の循環器疾患や高血圧、脂質異常症等の生活習慣病を主に担当していますが、それ以外の内科疾患に対しても対応します。

専門疾患以外の場合には、院内の専門医もしくは他の専門病院へ紹介することがあります。

外来診療案内

- 初診及び再診外来：月～金曜日 午前
- 心エコー検査、血管エコー検査：随時
- 冠動脈CT検査、エンドパット検査：月～金曜日（原則予約）
- 心筋シンチ検査：月～木曜日
- エンドパット検査は新しい動脈硬化の検査法です。非侵襲検査ですので特に合併症はありません。
- 心臓カテーテル検査：月・木曜日（月1回）、隔週火曜日

診療実績

- 外来患者数（延名数）：10,770人
 - 入院患者数（延名数）：7,095人
 - 冠動脈造影：82件
 - 冠動脈形成術：106件
 - 下肢動脈形成術：31件
 - ペースメーカー植え込み術：20件（PMI、新規）
- ※カテーテル治療、アブレーション治療は日本心血管インターベンション専門医、日本不整脈学会認定専門医に来ていただき行っています。

メッセージ

2019年度より循環器内科医（常勤）が3名になりました。

当院では、外来での通常診療に加えて、夜間休日の急性心筋梗塞、不安定狭心症の患者に対しても可能な限り対応し、緊急カテーテル検査、治療を行っております。不整脈に対しても、薬物治療だけでなく、カテーテル治療を行うことが可能です。

心臓の血管だけではなく、閉塞性動脈硬化症という足の血管病が増えており、こちらに対してのカテーテル治療も行っております。循環器の常勤医が増えたことから『フットケア外来』といった専門外来での治療も開始しています。足が痛かったり、しびれたり、冷えがある方は、いつでもご相談ください。

心臓の病気を持った方にとって運動はとても重要です。しかし、心臓が悪いことで過度な負荷をかけることもできず、徐々に筋力が低下していきます。このような高齢の患者様が増えていることから、当院では外来での『心臓リハビリ』を行っております。心臓の病気を持った患者様がどの程度まで運動できるのか、どこを目標に運動するべきなのか、医師、看護師、理学療法士など多職種でのカンファレンスを行い、検査結果を元にリハビリを実行します。心臓に不安のある方、心不全を起こしたことがある方、運動が大事なのはわかっているけど日常で実践できていない方、循環器内科へご相談ください。

『いびき』はひどくないですか？睡眠時無呼吸症候群と言う、睡眠時に呼吸が止まってしまう病気があります。これは心臓にも大変負担がかかる病気であり当科でも積極的に診断を行っております。外来でできる簡易検査から、入院で行う精密検査まで当科で可能ですので、いびきがひどいと感じて

腎臓内科

スタッフ紹介



内科系診療部長
吉嶺 陽造



大塚 彰行



上村 征央

診療内容

慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、ループス腎炎、急性腎障害、慢性腎臓病（保存期～透析療法、腎移植の相談）、糖尿病性腎症、多発性嚢胞腎、薬剤性腎障害、電解質異常など。

外来診療案内

初診及び再診外来：月～金曜日…午前

○血液透析：月・水・金曜日…午前・午後
火・木・土曜日…午前

診療実績

○外来患者数（延名数）：9, 810人

○入院患者数（延名数）：4, 013人

○腎生検：21件

○血液透析：6, 836件 患者数：645人（導入24人）

○内シャント設置術（動脈表在化含む）：16人

○長期留置カテーテル：2件

○経皮的内シャント拡張術（PTA）：10件

○腹膜透析カテーテル挿入術：1件

○その他手術：2件

○腹膜透析患者数（実名数）：10人

メッセージ

腎疾患は症状が少なく、気づいたら進行していたというケースが多い病気です。

根本的に治療できる疾患もあれば、腎不全に至ってしまう疾患もありますので、検尿や採血などで異常をみつけた際は早めの外来受診をお願いします。受診の際は、今までの検査結果、おくすり手帳等をご持参ください。

小児科

スタッフ紹介



事業管理者 鮫島 幸二



部長 太原 鉄平



今塩屋 聡伸



鈴東 昌也

診療内容

小児内科疾患

来診療案内

- 初診及び再診外来：月～金曜日 午前
- 9～11か月健診：月・金曜日 午後
- 予防接種：火・水曜日 午後
- 心臓検診：第2・4木曜日 午後
- 脳波検査：随時 午後

診療実績

○外来患者数（延名数）：3, 221人 ○入院患者数（延名数）：879人

メッセージ

平素から当科にご格別のご配慮いただき有難うございます。

外来予約が必要な場合もありますので、御不明な点は御相談ください。

放射線科

スタッフ紹介



部長 浦門 忠仁

診療内容

CT、MRI、RI検査の読影

外来診療案内

CT、MRI、RI検査：月～金曜日

診療実績

CT：7, 849件 MRI：2, 788件 RI：262件

メッセージ

画像診断の分野は、高度化、専門化が急速に進んでおり、一名で全領域をカバーするのが難しくなっています。判断に迷う症例につきましては、遠隔画像診断を併用しており、これにより、より質の高い報告書を作成できると考えております。その際は、報告書の返信が翌日以降になる場合もありますが、ご了承ください。

第2CTの更新があり、令和4年10月より稼働しております。待ち時間も短縮され、よりスムーズに検査を施行できるようになっておりますので、ご活用ください。

外科系診療部

スタッフの人員構成

当院外科系診療部は、脳神経外科1名、外科3名、整形外科4名、眼科1名、麻酔科2名の11名が常勤で診療にあたっています。

外科

スタッフ紹介



院長 花田 法久



外科系診療部長
上村 眞一郎



部長 有馬 浩太



医長 上村 紀雄

診療内容

専門医が外来、入院、手術に対応しています。非常勤医師として、隔週で木曜日に乳腺外科の上村医師、金曜日に吉本医師が対応します。夜間、休日の救急外来も対応し、いつでも緊急手術も出来る体制をとっています。

- 消化器癌全般（胃癌、大腸癌、食道癌、肝臓癌、胆道癌、膵癌など）
- 甲状腺腫瘍や乳癌などの乳腺・内分泌腫瘍
- 肺癌や気胸などの胸部疾患
- ヘルニア（鼠径、大腿、腹壁瘢痕など）、胆石症、虫垂炎、腸閉塞などの良性疾患

外来診療案内

- 外科：月曜日から金曜日午前
- 乳腺外来：第1、3、4木曜日午前
- 呼吸器外科：第2、4金曜日午後
- 緩和ケア外来：毎週水曜日17時

診療実績

- 手術件数：228件
- 外来化学療法：638件

メッセージ

当院におけるがん診療の特色として、内視鏡治療、手術、化学療法、放射線治療を組み合わせた集学的治療を行うことができます。

最近、胃癌は外科手術により消化器内科医による内視鏡手術で治癒する名の方が多くなっています。根治性、安全性を考慮し、最良の治療をより多くの患者に受けていただけるように力を尽くしたいと考えています。

整形外科

スタッフ紹介



副院長 中村 憲一



岩崎 正大



白澤 美順

診療内容

- 急性期：多発外傷、多発骨折、スポーツなどによる、骨折、靭帯損傷
- 高エネルギー外傷（転落、交通事故など）：脊椎骨折、脊髄損傷、骨盤骨折
高齢者の転倒による骨折（大腿骨近位部骨折、橈骨遠位端骨折など）
- 慢性期：原発性関節症（肩、肘、手関節、股関節、膝関節など）、
関節リウマチ性関節症、変形性脊椎症（頸椎症性脊髄症、胸髄症、腰部脊柱管狭窄症など）
- 小児；先天性股関節脱臼、内反足、斜頸、骨・軟部腫瘍

外来診療案内

- 月・木曜日の午前中（火、水、金は、午前中から手術）
特に、開業医で治療に難渋する症例の紹介をお待ちしております。

診療実績

- 外来患者数（延名数）：8, 379人 ○入院患者数（延名数）：18, 141人
- 手術件数：321件

メッセージ

可能な限り、手術施行しました。スポーツ教室など、地域の子供たちの指導に尽力したいと思っております。また、骨粗鬆症教室など、高齢者に対する地域活動も考えております。

脳神経外科

スタッフ紹介



脳卒中センター長 瀬戸 弘

診療内容

頭部外傷、脳卒中、脳腫瘍、頭痛、眩暈、てんかん等

外来診療案内

月、金曜日は熊本大学応援医師による外来診療
火曜日は瀬戸医師による外来と今村医師によるメモリークリニック
水曜日は瀬戸医師と応援医師の池田医師による外来診療
木曜日は休診日ですが急患等一部対応

診療実績

- 令和4年1月～12月の入院患者 199人で、そのうち脳血管障害135人
- 令和4年1月～12月の手術症例 62例 ○令和3年1月～12月の脳ドック受診者30人

メッセージ

常勤医師が瀬戸一名のため、十分な対応はできませんが、入院患者も含め、応援医師の支援を受けながら可能な範囲で対応しました。夜間や休日の脳卒中急患は広域医療センターが率先して対応してくれています。

血管内治療の手術については、済生会熊本病院の加治医師に必要な応じて手術に来てもらっています。

眼科

スタッフ紹介



診療内容 部長 松尾 由紀子

白内障、緑内障、糖尿病網膜症など眼科の一般的な疾患を主に診療しています。専門的な治療が必要な場合は他の病院へ御紹介し、専門病院と連携を取りながら治療を行っています。

外来診療案内

初診・再診とも基本は予約制ですが、症状の急変や緊急の場合を含め、当日受診も可能です。ただし、緊急の疾患以外では予約の方が優先となるため、待ち時間は長くなってしまいます。

○初診及び再診外来：月曜日～金曜日の午前 ○手術：火曜日午後

○視野検査やHESS、レーザー治療などの特殊検査と治療：月・水・木・金曜日の午後

診療実績

○外来患者数（延名数）：3,714人 ○入院患者数（延名数）：135人

メッセージ

当科では白内障手術と翼状片手術を入院で行っております。

手術までの待機期間は1.5～3ヶ月と変動があり、術後の完全な視力改善までには約2ヶ月かかります。そのため、運転免許更新前に視力低下の自覚がある方は、なるべく早めに眼科を受診されることをお勧めいたします。

外来受診の予約は電話でも受け付けております。緊急や当日受診希望の場合を含め事前に電話連絡をいただけましたら、よりスムーズに診察を受けていただけるかと思っております。

麻酔科

スタッフ紹介



診療内容 部長 田尻 晃彦 医長 中筋 あや

患者手術の麻酔が安全、安心、安楽に行われるよう、予定および緊急手術に肅々と対応する。

外来診療案内

午前8時30分から、主に手術を受ける患者の術前診察を行っています。

新規のペインクリニックの患者のお引き受けはできておりません。

診療実績

令和4年度の全手術件数は700件、うち緊急手術は114件でした。麻酔実績は、全身麻酔が479例、硬膜外麻酔と脊髄くも膜下麻酔を合わせて47例、合計で526例でした。

メッセージ

麻酔科医は、手術室看護師や各科医師と協力し、薬剤科や放射線科、臨床工学科、臨床検査科とも連携して、手術チームとして活動しています。令和4年度は常勤麻酔科医2名、非常勤麻酔科医2名の体制を整えることができましたが、上記診療実績においては令和3年度の症例数をやや下回ってしまいました。しかし常勤医の増員と非常勤医の応援もコンスタントに得られるようになったためマンパワーは充足し平日夜間、休日のオンコール体制も整えることができるようになりました。今後の診療実績の上積みを目指します。中断していた救急救命士の気管挿管実習も再開し、頓挫していた2名の実習を完遂しました。今後も地道に地域医療に貢献していきたいと考えています。

中央手術室

令和4年度活動目標

- 手術室でのスタンダードプリコーションを習慣化する
- 思いやり、気遣いの出来る職場作り
- スタッフ同士が良きパートナーとして協力・共育しあい、安全で安心な手術が提供できる

総括

コロナウイルスに感染された方の手術も経験し、目標に掲げている感染対策の標準化、それを実践するためのチームワークなど感染管理に対する学びが多くあった。

行われる手術の内容も年々高度になってきており、責任を持って学び続けられるように努力しています。

スタッフ紹介

看護師 10名（産休1名含む） 看護補助者 2名

研修実績

- 災害支援ナース育成研修

メッセージ

地域の基幹病院として、緊急手術も各科担っています。

新しい技術の習得にも努め、地域の皆様に安心して手術に臨んで頂けるようにこれからも学んで行きたいと思えます。

Ⅲ 薬剤部

薬剤科

令和4年度活動目標

病棟薬剤業務及び薬剤管理指導業務薬、退院時服薬指導、入院時持参薬の確認及び管理を含む病棟業務の充実を図るとともに、レジメン管理に基づく抗がん薬の無菌調製、TPNの無菌調製、TDM解析及び投与設計、外来患者の検査前等の服用薬確認、医薬品情報管理業務を通じて、チーム医療を推進し、患者に安全で効果的な治療を提供できるよう貢献していきます。

総括

病棟担当薬剤師の病棟での活動時間を確保することで、薬剤の専門家として医師や看護師等各スタッフへの情報提供を積極的かつ速やかに行い、医薬品の適正使用に貢献しています。また、入院患者に対し、薬剤管理指導及び退院時服薬指導を行い、一名一名の患者に応じた薬物療法の支援を図っています。NSTチーム、感染対策チーム、褥瘡対策チーム等の一員としても活動し、チーム医療に貢献しています。

さらに、薬局との連携強化を通じて、がん患者に対する質の高い医療を提供できるよう連携充実加算による薬薬連携にも取り組んでいます。

スタッフ紹介

薬剤師 10名 臨時職員（事務） 2.5名

<資格認定者数>

日本医療薬学会がん専門薬剤師	1名	日本糖尿病療養指導士	2名
日本医療薬学会がん指導薬剤師	1名	認定実務実習指導薬剤師	1名
日本医療薬学会医療薬学専門薬剤師	2名	日病薬病院薬学認定薬剤師	3名
日本医療薬学会医療薬学指導薬剤師	1名	医療情報技師	1名
NST専門療法士	3名	医療環境管理士	1名
ICD	2名		

研修実績

- 日本医療薬学会年会
- 日本薬学会九州支部大会
- 日本糖尿病学会
- 日本静脈経腸栄養学会学術集会
- 日本臨床腫瘍薬学会学術大会
- 日本化学療法学会学術集会
- 日本褥瘡学会
- 医療安全管理者養成研修
- 日本腎臓病薬物療法学会・学術集会
- 日本環境感染学会総会・学術集会
- 医療情報学会連合大会 等

メッセージ

医療スタッフとの協議・連携によるチーム医療を推進し、患者の状況に的確に対応した医療を提供できるよう頑張っています。

また休日・夜間を含む24時間体制で、地域の救急医療に対応しています。

IV 診療技術部

放射線技術科

令和4年度活動目標

- 科の業務周知の徹底
- 各モダリティごとの件数把握

総括

通常業務に加えて、令和4年度は第2CT (Aquilion serve) が2022年10月に導入されて、検査効率の向上及び、待ち時間の短縮等、画像診断に貢献しました。

また骨密度測定装置 (PRODIGY FUGA)が年度末整い検査精度が向上し、整形の手術支援及び、女性検診の骨密度判定に貢献しています。

また、マンモ施設認定に伴い、当院の女性マンモ技師が検診マンモ認定資格を取得し、検査及び読影の精度が飛躍的に上がりました。

またコロナ対応にて、CT、一般撮影、ワクチン接種応援等行いました。

スタッフ紹介

診断部門：放射線科常勤医師 1名 非常勤医師 1名

診療放射線技師 11名 看護助手 1名

(資格認定者)

医用画像精度管理士 2名

放射線機器管理士 2名

放射線管理士 2名

検診マンモグラフィ撮影認定技師 3名 (女性2名)

医療経営士2級 1名 医療経営士3級 1名

放射線被ばく相談員 1名 手術支援認定技師 1名

臨床実習指導教員 2名 AI認定技師 2名

メッセージ

今後とも、質の高い画像診断を目指し、北薩地区の医療に貢献できるように日々努力していきます。

また、医療安全、感染対策に気をつけながら、日々の業務を遂行していきます。

最後に、チーム医療の一員として他職種との連携をはかり思いやりをもった医療を目指していきます。

臨床検査科

令和4年度活動目標

- 患者さんのために迅速に質の高いデータの提供に努める。
- 最新の知識と検査技術の習得に努める。
- 院内でコロナのPCR検査の実施に努める。

総括

臨床検査科では、検体検査において、緊急検体（検血・生化学）の30分以内結果報告、入院検体の8時30分までの結果報告を目標としています。

生理検査においては、腹部超音波認定士、心・血管超音波認定士の育成を図っていきます。

令和元年度は、中央採血室の運用を開始しました。令和3年度は、中央採血室の運用の一翼を担えるよう、臨床検査技師の採血業務を実施し、チーム医療に貢献します。コロナに対しては、24時間対応で当日中に検体採取から検査までを院内で実施します。

スタッフ紹介

臨床検査技師 12名（正職員10名 再任用1名 臨時1名）

診療放射線技師 1名

<資格認定者数>

NST専門療法士 1名

日本糖尿病療法士 1名

認定輸血検査技師 1名

認定一般検査技師 1名

超音波認定士（腹部） 1名

2級臨床検査士（微生物） 1名

研修実績

第18回 鹿児島県医学検査学会

鹿児島県臨床検査技師会研修会

第56回 日臨技九州支部医学検査学会

メッセージ

検体検査部門では、正確なデータを迅速（30分以内）に報告できるよう努力し、院内でのコロナ関係は24時間対応し、検体採取からPCR検査報告をすべて迅速に処理します。生理部門では、患者への接遇に努めながら的確にかつ迅速に報告できるよう努力しています。

臨床工学科

令和4年度活動目標

○感染状況に対応すべく安全な医療を提供する。

総括

○高気圧酸素年間件数は、623回で脳梗塞、整形外科領域の頸椎、骨髄疾患が増加しています。タスクシフトに伴うDr、看護師の業務軽減に協力し安心安全な医療を提供すべく内視鏡、ペースメーカー業務を行っています。

○ペースメーカーやCPAP、FGM（フラッシュグルコースモニタリングシステム）など在宅での治療が増加しており、今後ますます新しい治療が増加すると思われ少しでも早く市民の皆様へ供給出来るように心がけています。

スタッフ紹介

臨床工学技士 6名

<資格認定者数>

人工透析技術認定士 1名

3学会合同呼吸認定士 1名

中央機器管理装置

人工呼吸器（IPPV） 6台

人工呼吸器（NPPV） 2台

ハイフローセラピー 3台

輸液ポンプ 60台 シリンジポンプ 35台 経腸栄養ポンプ 10台

持続緩徐式血液浄化装置(CHDF) 1台 腹水濾過濃縮装置 1台

低圧持続吸引器 5台 フットポンプ 8台 超音波エコー 2台

リフト式体重計 1台 離床検知装置 31台 離床センサーマット 15台

高低体温維持装置 1台

メッセージ

コロナの蔓延で基礎疾患のある患者さんの重症化が叫ばれる中、当科としても呼吸不全に対応すべく人工呼吸器やハイフローセラピーの拡充を図り、病院関係部署のご協力の元十分な台数を揃えることが出来ました。

臨床工学科は、数年前より名数が倍に成っており看護師が行っていた業務内容を臨床工学技士で補うことで看護師不足の軽減や医療機器を扱い安心安全な医療を提供できるかと思えます。

リハビリテーション技術科

令和4年度活動目標

部署目標：「業務の効率化、改善のため、職員一名ひとりが考えて行動しよう」

理学療法部門：事務作業の効率化で、患者診療・退院支援を

作業療法部門：間接業務を整理して、効率よく業務を遂行し安心安全な作業療法を提供する

言語療法部門：5名で協力して業務の効率化を進めよう

総括

昨年のクラスター経験を活かし、感染対策を見直し、更新しながら診療業務に取り組んで参りました。患者診療スペース不足に対し、旧MRI室を第2リハビリ室に改造していただきました。当院初のクラウドファンディングにも挑戦し、多くの市民の方々のご協力をいただき、新しい機器、明るい部屋を使用しリハビリ診療に取り組んでいます。

スタッフ紹介

理学療法士 16名 作業療法士 13名 言語聴覚士 5名 助手 1名

<資格認定者数>

○認定理学療法士（脳卒中） PT1名

○心臓リハビリテーション指導士 PT1名

○心不全療養指導士 OT1名

○電図検定2級 PT1名

○転倒予防指導士 PT1名

○福祉住環境コーディネーター2級 T5名 OT5名

○ケアマネージャー OT1名

○3学会合同呼吸療法認定士 PT5名 OT2名

○障害者スポーツ指導士 PT1名 OT1名

○医療安全管理者 PT4名 OT1名

○認知症ライフパートナー2級 OT3名 3級 OT2名

○リンパ浮腫指導技能者 OT1名

○停止車両評価インストラクター OT1名

研修実績

○日本作業療法士学会

○地域ケア会議推進リーダー研修会

○介護予防推進リーダー研修会

○医療安全管理者養成研修

○医療安全ネットワーク研修会

○日本ハンドセラピィ学会

○高次脳機能障害実践的アプローチ講習会

○停止車両評価インストラクター講座

○モニタ講習会

○その他各所属県士会主催研修会

メッセージ

充実したリハビリテーションの提供ができるよう、診療以外の業務見直しに取り組んでおります。新型コロナウイルス感染だけでなく、その他の感染対策も徹底しながら業務に当たって参ります。これからも院内、院外各関係機関の方々への情報提供、患者指導にもつとめていきたいと思っております。

栄養科

令和4年度活動目標

- 患者さんの意見を尊重し、患者さんに喜ばれる食事を提供する。
- 大量調理施設マニュアルを遵守し、清潔で安全な食事作りを実践する。
- 患者様主体の栄養指導を行い、QOLを高める手助けをする。

総括

活動目標を念頭に、栄養士・調理員とも個々の目標に取り組み達成出来た。各科の回診やカンファレンスへの参加など、栄養科の活動範囲を広げ、栄養管理計画の充実、栄養指導件数増につなげる事ができた。今後はさらに知識・技術を深め、チーム医療の一員として貢献していきたい。

また、COVID-19陽性者の食事について、ディスプレイ容器を利用した弁当での提供だったが、弁当であっても衛生面に配慮した適時適温での給食を提供できるよう模索し、栄養科一丸となって取り組めたことも良い経験だった。

スタッフ紹介

管理栄養士 3名 栄養士 2名 調理主事 2名 臨時調理員 9名

パート調理員 2名

<資格認定者数>

NST専門療法士 2名

研修実績

- 日本臨床栄養代謝学会
- 日本病態栄養学会
- 鹿児島県栄養士会

メッセージ

患者さんに寄り添い、食事提供を通じて心身の健康をサポートするとともに、衛生的で安全な食事を安心して食べていただけるよう、栄養科一同、心をこめて取り組んで参ります。

V-1 看護部

看護部総括

令和4年度活動目標

【安全で質の高い看護の提供】

- ICTとの情報共有を行い、リンクナースを中心に活動する
- 接遇（相手への思いやり・気遣い）良好な職場づくり
- ペアナーシングを確立し、“共育”の環境を整える
- 名材育成と自己啓発・研鑽の推進

総括

令和4年度は前年度からの新型コロナウイルス感染症への対応経験を基盤に、更なる感染対策に努めました。

また、看護主任以上の看護管理者教育に力を入れ、各担当部署の看護管理について実践し、その成果等を他部署の職員へも公開・共有することで、看護の質向上に繋がるよう活動しました。

スタッフ紹介(名員構成)

正規看護師（産休・育休等含む）156名 正規介護福祉士 5名
臨時看護師19名 臨時看護職員（看護補助者・看護事務補助）38名

<資格認定取得>

救急看護認定看護師（1名）	感染管理認定看護師（1名）	DMAT隊員（看護師3名）
災害支援ナース（9名）	日本糖尿病療養指導士	NST専門療法士
透析療法指導看護師	透析技術認定士	認知症ケア専門士
二種衛生管理免許	介護支援専門員	内視鏡技師
介護支援専門員	住環境コーディネーター2級	
ACLS（二次救命処置）プロバイダー	JNTEC（標準外傷看護コース）プロバイダー	

研修実績

【主な研修】

- 認定看護管理者教育課程ファーストレベル：1名
- 認定看護管理者教育課程サードレベル：1名
- 皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程（A課程）：1名
- ACP研修
- 看護研究研修

【講師】

- 看護学校講義：8名

メッセージ

今年度、認定看護師研修（緩和ケア・皮膚排泄ケア）と、認定看護管理者（サードレベル）研修に参加しており、今後はその活躍に期待が大きいところです。地域の基幹病院としての役割は大きく、看護師としてその一翼を担うことのできる看護師育成に努めていきます。

2病棟

令和4年度活動目標

- 感染病棟の役割を認識し、感染予防ができる
- 相手を思いやる気持ちを持ち、働きやすい職場環境を作る
- 業務改善に取り組みペアナーシングの確立を図り、共に成長できる環境を作る
- 積極的な研修参加を行い、専門的知識の習得と学び続ける姿勢を持つ

総括

コロナ感染者数の増加、認知症や要介護者の入院、院内クラスター等で介護度が上がったが、他部署の応援をもらい8月以降の職員の陽性者はなかった。新規勤務者へのオリエンテーションファイルを作成し活用できた。

感染病棟へのご意見はなかった。感染病棟は2名勤務体制であったが、お互いに声かけを行いコミュニケーションをとるよう心がけ業務ができていた。

eラーニングはチェック表を作成しほとんどの職員が受講できた。コロナ感染者の増加で業務が煩雑し休息もとれない状態であったため、院外研修参加はできなかったが、感染病棟の役割を認識し感染に注意しながら取り組めたと考える。コロナ感染症が5類に移行するため、地域包括ケア病棟の再稼働に向けて準備を勧め、役割認識を持ち取り組んで行きたいと考える。

スタッフ紹介

看護師	17名
介護福祉者	3名
ベッドキーパー業務	1名
看護事務補助者	1名

研修実績

- 看護補助者の活用推進のための看護管理者研修 1名
- 看護必要度研修 1名
- ACP 2名
- 感染に関する研修 1名

メッセージ

コロナ感染症の蔓延により、感染病棟としての役割を認識し、安全な看護の提供と感染対策に努めてきた。2類から5類への移行にともない、本来の地域包括ケア病棟としての役割を認識し、受け持ち看護師が中心となりACPを含めた患者、家族支援につとめ、患者さんがその名らしく過ごせ、安心して地域で生活できるよう他職種カンファレンスの強化や退院支援に努めていきたいと考えます。

3病棟

令和4年度活動目標

- ICTメンバーを中心としたPDCAサイクルを実行しながら感染拡大を防ぐ
- 相手と良好なコミュニケーションを図る環境作りができる
- 働き方改革につながるペアナースング体制の確立と看護師の看護力向上、さらに地域医療貢献への意識を持つことができる
- 専門的知識、看護について個々が目標を設定し達成できる

総括

12月末にクラスターとなりましたが、感染委員だけでなく感染症病棟勤務後の看護師で感染対策を行いながら収束できました。接遇では、接遇委員での病棟接遇問題点の抽出・改善策をまとめ、病棟スタッフ全員に周知しました。ペアナースング体制の評価は部署異動に伴い看護師構成が変化しネガティブな意見も出ていましたが、今後も看護のチーム力向上、働きがいにつながるよう努力します。感染専門看護師育成試験に1名合格、会計年度任用職員が介護福祉士に合格し個名が自主的に学習している姿勢がみえます。専門的知識を持って看護を提供できるよう頑張ります。

スタッフ紹介

看護師	22名
准看護師	1名
介護福祉士	2名（透析施術認定士1名、内視鏡技師、ALCSプロバイダー1名含む）
看護補助者	2名
ベッドキーパー業務	1名
看護事務補助者	1名

研修実績

- 実践！アドバンス・ケアプランニング（ACP）
- 看護研究Ⅰ・Ⅱ
- 看護補助者の活用促進のための看護管理者研修
- 看護記録の基礎とポイント研修
- 入退院支援 基礎編 研修
- 病院医療従事者向け認知症対応力向上研修
- 令和3年度認定看護管理者教育課程セカンドレベル教育修了者フォローアップ研修
- 感染管理認定看護師教育課程 入学試験
- 新名看護職員卒後教育担当者研修

メッセージ

当病棟は乳児から高齢者まで幅広い年齢の患者さんへ看護を提供するために、日々学習を重ね、専門的知識を深めています。また手指衛生を必要な場面で実施し、感染予防に努めています。今後も、市民の皆様喜んでいただけるように多職種と連携を図り、相手の立場に立った看護を提供していきたいと思っております。

4病棟

令和4年度活動目標

- ICTメンバーを中心に、病棟スタッフ全体で基本的予防策の遵守・維持を行う。
- 相手に伝わるような挨拶・声かけをし、雰囲気の良い職場作りを行う。
- 円滑なコミュニケーションが図れ、すべてのスタッフのスキルも向上する。

総括

外科・消化器内科では、腹腔鏡や内視鏡など、低侵襲で行われる消化器系の癌などの治療を行う患者さんの看護を中心に、緩和ケアや、終末期患者さんにも寄り添いました。一般内科では、さまざまな内科疾患をもつ患者さんの看護にもかかわり、幅広い看護の提供に努めました。

基本的予防策の遵守・維持を行うことでクラスター発生も抑止することができました。

病棟内が良い雰囲気の職場になるよう、情報共有を行い、看護ケアの充実を図りました。

スタッフ紹介

看護師	27名（NST専門療養士1名、認知症ケア専門士3名）
介護福祉士	1名
看護補助者	2名
看護事務補助者	2名
ベッドキーパー業務	2名（1名は隔日）

研修実績

- 看護記録の基礎とポイント
- 病院勤務の医療従事者向け認知症対応力向上研修
- 看護補助者の活用促進のための看護管理者研修

メッセージ

4病棟は、外科・消化器内科、一般内科の混合病棟です。手術や内視鏡、化学療法などの処置前後の看護で、業務は多岐に及び、煩雑することも多いですが、患者さんや、ご家族に寄り添った看護の提供を心がけたいと思います。安全な治療が受けられ、また安心できる入院生活がおくれるように、環境を整え、喜んでいただける看護の提供に努めてまいります。

5病棟

令和4年度活動目標

- 感染予防につとめながら患者の診療や治療補助につとめ、患者の療養支援を行いながら回復期病棟との連携を図っていく。
- ペアナーシング体制を整え、スタッフ間の連携を図り、より良い看護の提供を図っていく。
- 他職種連携をはかり、患者の退院支援につなげていく。

総括

コロナ患者の受け入れて感染拡大予防につとめながら、急性期患者の受け入れを行っていった。面会制限による患者・家族の思いを傾聴しながら丁寧に対応していった。

自己研鑽に対しては院内・院外の研修に積極的に参加し、病棟での学習会を行いスタッフ間で共有していった。

面会制限が続く中で患者や家族とのコミュニケーションをはかり良好な関係を築き信頼される看護の提供に努めていきたいと思う。

スタッフ紹介

看護師	27名（消化器内視鏡技師1名を含む）
准看護師	2名
介護福祉士	3名（時短勤務者1名含む）
看護補助者	3名（夜間専門2名含む）
ベッドキーパー業務	2名（1名は隔日）
看護事務補助者	2名

研修実績

褥瘡管理に関する研修	1名
病院医療従事者向け認知症対応力向上研修	1名
新名看護職員卒後教育担当者研修	1名
入退院支援（基礎・応用）	各1名
ACP	1名
感染に関する研修	1名
第9回鹿児島市セーフティマネジメント研究学術集会	1名
令和4年度認定看護管理者教育課程ファーストレベル	1名
新名看護職員卒後研修実地指導者研修	1名

メッセージ

5病棟は脳神経外科、整形外科、総合内科の急性期病棟です。高齢者の入院が多く、疾患によっては入院前と生活が異なる状態となり多職種との連携を図っていかなければなりません。

また、退院に向けては回復期病棟との連携も重要となります。患者の不安を軽減しながら、少しでも患者・家族が望む生活が送れるように多職種との連携をはかり支援していけるように心がけていきます。

6病棟

令和4年度活動目標

- 5S活動にて患者及び職員を院内感染から守ろう。
- 「ほう・れん・そう」を確実にしながら信頼関係を大切に、より良い看護実践を行う。
共に成長していく。
- 患者・家族だけでなくスタッフ間でも接遇の4原則（笑顔、挨拶、態度、言葉づかい）を意識した対応ができる。
- 学び続け質の高いケアを提供する。

総括

感染予防に対しては患者指導（マスク交換指導・実施）、スタッフの感染対策（トイレ使用後の清掃、車椅子使用後の清拭等）への意識向上を図り習慣化に努める一方、手段活動としてのレクリエーションやデイルームでの食事は実施できなかった。看護体制としてはペア体制の構築はできたが、パートナーシップマインドが課題であると考えます。

スタッフ紹介

リハビリテーション科医師 1名
 理学療法士 専従 3名 作業療法士 専従 3名 言語聴覚士 専従 1名
 看護師 16名（資格：介護支援専門員 3名含む）
 准看護師 1名 介護福祉士 3名
 看護補助者 7名 看護事務補助 1名

研修実績

- 大名の発達障害 4名
- 実際の事例から学ぶ誤薬防止 1名
- 入院支援 基礎・応用編 1名
- 医療安全に活かすノンテクニカルスキル 1名
- ACPの推進における倫理的課題への対応 3名
- 災害支援ナース育成研修 1名
- 実践APC 「患者の意向を尊重しその名らしく生きることを支援するために」 1名
- 褥瘡ケアとスキンケア 1名
- 退院支援、在宅支援 4名
- 認知症ケアにおける安全対策 3名
- 看護倫理の思考と実践 1名

メッセージ

在宅療養で支援されている方々からの情報を大切にしながら回復期病棟での初期カンファレンスを実施し多職種で情報共有を図っている。また高齢者、認知症の方が多く中で、“安全に”ADL拡大を図ることを多職種で考えながら、ご本名、ご家族が望まれる生活の場への退院支援に努めている。

今後、転入後3週間目で計画している定例カンファレンスの実施を強化しながらその方に適した退院支援に取り組んでいきたいと考えている。

V-3 看護部 外来看護科

内科系(内科、小児科、放射線科、眼科、婦人科)

令和4年度活動目標

- 手指衛生の習慣化を図る
- 思いやりの気持ちを持ち、働きやすい環境を整える
- 外来でのペアナーシングに取り組み、共育の環境を整える
- 継続的に学習することで専門的知識を深める

総括

新型コロナウイルス感染拡大防止に努めながら日々外来患者の訴えに対応してきました。特に手指衛生習慣化に取り組み、年間平均85.5%と目標を達成しました。

また、不安を抱えながら毎日を過ごす患者の手助けが出来るようスタッフ全員で支えていくことを目標とし、他職種と連携しながら支援、看護につなげてきました。

一方、地域災害、救急に関連した専門的知識を学び、地域医療につながるよう研鑽にも取り組んできました。

今後も他職種と連携し、さらにより良い支援、看護はなにか、安全な医療提供に努めていくよう共に学び、大きな助力につながるようしていきます。

スタッフ紹介

(内科・眼科・小児科・放射線科・発熱外来・中央採血室・婦人科)

看護師 22名 (助産師免許取得者3名含 育児休暇中 2名含)

准看護師 3名 医師事務補助者 8名 看護補助者 2名 事務補助者 3名

研修実績

- モニタ講習会 ベーシックコース
- 令和4年度認定看護管理者教育課程 ファーストレベル
- 救急看護 消化器系脳神経系について学ぶ
- 看護研究研修Ⅱ
- 災害支援ナース 育成研修
- 日本医療マネジメント学会 第20回九州・山口連合大会
- 医療安全研修「認知症と医療安全」

メッセージ

内科系外来は、一般内科・総合内科・循環器内科・腎臓内科・健康管理科を中心として、救急医療から予防医療までまさに生活習慣に関わる疾患の診療を担っています。

また、糖尿病代謝内科・呼吸器内科・血液内科・脳神経内科・動脈硬化外来は週1～2回の非常勤医師が診療を行っており、多種にわたる専門的疾患患者との関わりを重視し、安心して安全に診療をうけて頂けるような支援・看護提供を心がけています。

さらに、小児科・眼科・放射線科・婦人科は特殊性もあり、特に循環器関連では診断、治療を目的とした検査や緊急性も高いため、専門的な知識や技術の向上を図るために、常に学ぶ意識を持ちながら自己研鑽に努めていきたいと思えます。

今後、AI問診活用を推進し、診療に必要な情報管理を行いながら業務の効率化・診察時間短縮も図っていく予定です。感染予防対策においては、手指消毒回数10回/日以上以上の定着を図っていきます。

外科系(脳卒中センター(脳神経外科)、整形外科、皮膚科)

令和4年度活動目標

- 感染対策の基本を再確認し、持ち込まない、広げない感染対策を徹底する。
- 相手を尊重した言葉遣いや態度を表現できる。
- 学研ナーシングサポートを視聴し、自己学習する

総括

感染対策として週1回部署内で手指消毒の評価をおこない、高い遵守率をキープ出来ていました。スタッフがコロナ感染症となりましたが、クラスター発生することはありませんでした。接遇に対する取り組みとしては、自己評価を定期的実施し職場の傾向や弱点から改善に努めていきました。配信講義については必須研修を中心に視聴し自己研鑽に努めています。

スタッフ紹介

(脳卒中センター 整形外科 皮膚科)

看護師 5名(助産師免許取得者1名含) 医師事務補助者 3名 事務補助者 2名

研修実績

- 看護協会 出水地区研修
「大名の発達障害を知る 医療現場の抱える問題も含めて」
- 第24回日本褥瘡学会学術集会
- 看護連盟研修「看護記録」
- 日本医療マネジメント学会 第20回九州・山口連合大会
- 看護協会 出水地区研修
「退院院支援・在宅支援について」
- 医療安全研修「認知症ケア」
- 看護連盟研修 「お金の話」

メッセージ

年齢を重ねることによる関節の痛みや運動機能障害、突然の病気や怪我によって生じた麻痺や運動機能の回復治療をリハビリテーション科と協力しながらサポートします。

脳卒中センターでは、神経の中核である脳の手術や血管内治療前後の方、脳卒中の再発防止のために定期的な受診と内服治療のサポートを行っています。

整形外科では手術を控えて不安を抱いてる方、慢性的な痛みや運動制限など苦痛を抱えて生活されている方に寄り添える看護を目指しております。

外科系(消化器疾患センター、救急外来)

令和4年度活動目標

【消化器疾患センター】

- 手指消毒チェックを部署内で行うことで、手指消毒を癖づけよう
- 業務時間内の言葉使いを全て「です、ます」調で行おう。(職員間も年齢、上下関係無く)
- ペアでの活動を通して共に学び人材育成へ取り組もう
- 学研ナーシングサポートを利用し、自己研鑽しよう

【救急外来】

- 感染対策の基本を再確認し、感染の拡大を防ぐ
- 仕事にふさわしい言葉で、相手への思いやり・気遣いをする
- 共に学び、成長する部署となる

総括

新型コロナウイルス感染症予防に手指消毒は習慣化しており患者さんに接する前後や物品の清拭は高い実施率でキープできていました。業務時間内の言葉遣いは、まだまだ注意を要することがあり、今後も接遇改善に取り組んでいく所存です。コロナ感染症関連で人手不足になることもありましたが、協力しあい他部署からの応援を貰いながら患者さんに迷惑がかからないようにしていきました。配信講義については毎月試聴しており、それぞれが自己研鑽には励んでいます。

スタッフ紹介

消化器疾患センター 看護師 10名 医師事務補助員 5名 事務補助 1名
救急外来 看護師 7名

研修実績

- 鹿児島県肝炎医療コーディネーターWEB講演 ○鹿児島県肝炎医療コーディネーター研修会
- 臓器移植コーディネーター研修 ○第3回鹿児島県肝疾合同カンファレンス
- オリンパス医療ウェブセミナー南九州ESDスキルアップセミナー
- 第89回日本消化器内視鏡学会 ○第82回九州消化器内視鏡学会(熊本)
- がんリハビリテーション研修 ○看護研究研修Ⅲ
- 災害支援ナースレベルアップ研修(委員) ○災害支援ナースレベルアップ研修医療安全研修
- 医療安全研修「認知症と医療安全」

メッセージ

消化器疾患センターでは、外科的な処置や内視鏡検査、内視鏡下での処置など高度な医療を提供できるように取り組んでいます。化学療法室では安心・安全に点滴治療が受けられるようにサポートしており、令和5年度は緩和ケア認定看護師を目指すスタッフの参加もあり、より充実したサポート体制が整えられるようにしていきます。

救急外来では、急な病気や交通事故、外傷など迅速な対応を心がけています。今後は米盛病院とのドクターヘリ協定を結ぶ計画があり、救急体制の充実をはかっていきます。外来看護師は「医療」と「生活」の両方の視点を持つ必要があります。いろいろな健康の段階にいる方に寄り添いながら、生活の場での療養ができるようお手伝いしていきます。

人工透析室

令和4年度活動目標

- 感染しない、させないの意識を高めていきます。
- 相手の気持ちに寄り添った言葉や行動で良い関係性を築いていきます。
- ペアナーシング手順の定着化により、安心・安全な環境を整えていきます。

総括

今年度は、透析患者のコロナ感染者も増加しフルPPEでの対応も増え感染に対する手指消毒への意識も高まっている。今後も、スタッフへの指導継続と、共に患者への指導も継続していきたい。

お互いの言動や行動を指摘し合い、また、患者さんへの対応についても情報共有を行い、お互いに声を掛け合うことで良い関係性が築けていけた。今後も声を掛け合いながら相手の気持ちに寄り添って行けるように努めていきたい。

ペアナーシング手順に沿って業務を行い、問題があった際はカンファレンスを行い情報共有することで安心、安全な環境を整えて行くことができた。

スタッフ紹介

看護師 7名 看護補助者 1名

研修実績

- 慢性腎臓病(CKD)予防看護（zoom研修）
- 内視鏡に関する（web研修）
- 大人の発達障害を知る

メッセージ

様々な合併症を抱える患者が増加しており透析に関連した多くの知識、後術が必要となります。

人工透析室は、医師、看護師、臨床工学技士が一つのチームとして関わることで、安心、安全、安楽な透析を提供できるように努めてまいります。

医療安全管理センター

医療安全管理室

令和4年度活動目標

安全文化の醸成に努めよう

- ①事故再発防止のために分析能力を高めよう
- ②職員の危険予知能力を高めよう
- ③職員の医療安全意識の向上に努めよう
- ④医療安全管理者・セーフティマネジャーとしての知識の向上に努めよう

総括

- 患者影響度3b以上の事例ではPM-SEHHLを用いて事例分析を行い、改善策を立て、再発防止に取り組みました。
- 院内全部署で危険予知能力向上を目的としたKYT（危険予知トレーニング）に取り組みました。また、院内研修やSAFETYNEWS（院内情報紙）の発行を通して、職員全員の医療安全意識の向上に努めてきました。
- 全国医療安全推進週間に併せて、各部署のセーフティマネジャーが中心となって、テーマを「わかるまで聞こう話そう伝えよう」として、安全な医療を提供するうえで取り組むべき課題を挙げて各部署で実践しました。ポスター掲示も行い、推進週間を広く周知することができたと思います。
- 新型コロナウイルス感染拡大により職員研修会やその他勉強会等の集合開催に支障が出たため、ビデオ研修等に切り替えて実施しました。

スタッフ紹介

医療安全管理センター長 1名 専従医療安全管理者 1名

研修実績

- 医療安全管理者養成研修（e-ラーニング&集合研修） 3名
（医師、看護師、リハビリテーション科技師）

メッセージ

医療安全文化の醸成が図れるように、医療安全管理室を中心に各部署のセーフティマネジャーと協働で、院内巡視や医療安全推進週間の取り組み等を行い、積極的な活動を行っております。

また、各部署ごとに定期的なKYT（危険予知トレーニング）を行い、院内全体で医療安全活動意識の向上に取り組むことができます。

コロナ禍の中、今後もさらに医療安全文化の醸成がはかれ、安心・安全な医療が提供できるように病院全体で取り組んで参りたいと思います。

感染制御室

令和4年度活動目標

- 感染対策を徹底し、患者さん・職員の感染を防ぎます。
- 職員の感染対策意識の向上に努めます。
- 感染症患者が、よりよい治療が受けられるよう支援します。
- 感染対策の専門家として、知識、判断能力向上に努めます。

総括

令和4年度は、昨年と同様、新型コロナウイルス感染症の対応に重きを置いた1年間になりました。第8波では、数多くの発熱外来患者、入院患者を受け入れ、準備していた病床が満床になる程でした。また、地域の医療・福祉施設への支援活動も数多く行いました。病院内の感染症対策としては、感染症対策ラウンドを行い、手指衛生をはじめとした基本的な感染対策の維持・向上を図りました。また、感染症患者の治療についても、AST（抗菌薬適正使用チーム）による感染症治療の相談、支援事例も増えました。

これからも感染対策の維持・向上を目指して、取り組んでいきます。

スタッフ紹介

医療安全管理センター長 1名 感染管理認定看護師 1名

メッセージ

当院では、感染管理部門が設置され8年になります。感染管理は、医療施設にいる人々を感染から守ることが大きな役割です。各職員が感染対策に意識を持ち、患者さんや家族が、安心して療養できるように取り組んでいます。

また、感染管理に関する相談や質問も受けていますので、お気軽にお問い合わせください。

Ⅶ 診療支援部

地域医療支援センター

令和4年度活動目標

- 市民に愛される、頼りになる病院の顔として、質の高いサービスを提供する
- 業務改善を行い、連携の充実を図る
- 入院患者の早期退院支援の介入を図り、円滑な退院支援を行う

総括

- 紹介予約部門、入院支援部門、退院支援部門で協働して、入院前から退院まで切れ目なく連携した支援に努めてまいりました。
- 紹介元医療機関からの紹介予約、返書管理を行い、迅速かつ正確に連携医療機関へ情報提供ができるよう実施しています。
- 社会福祉士を病棟担当制にし、退院支援看護師と協働して早期介入に努めました。
- 院内外関係職種と医療・看護・生活上の課題の問題解決に努めました。
- 入院パンフレットの見直しを行い、分かりやすいパンフレットを作成しました。
- 定期的に学習会を開催し、質の高いサービス、接遇の向上に取り組みました。

スタッフ紹介

診療支援部長（副院長兼補） 地域医療支援センター長（地域医療センター参与兼補）
社会福祉士 5名 看護師 4名 会計任用職員（事務補助） 4名

研修実績

- 鹿児島県がん相談支援部門研修会
- 鹿児島県がん診療連携拠点病院事業四部門合同研修会
- 在宅医療・介護連携推進に係る多職種交流研修会
- 社会福祉士実習指導者研修会
- がん相談支援センター相談員研修1～3
- 九州医療ソーシャルワーカー研修会
- 認定医療対話推進者研修
- 第5回九州HIVソーシャルワーク研修会

メッセージ

患者さんの幸せな人生のために、私達は、院内・地域・社会資源をつなぐ窓口となり、多職種で協働して支援します。

今後も研修会に積極的に参加し、自己啓発に努め、質の高いサービスが提供できるよう努めます。

Ⅷ 事務部

総務課

令和4年度活動目標

- 院内会議等で重要案件を審議し、その結果を病院経営に活かします。
- 各種委員会の活性化を図ることで、より信頼される病院となるよう努めます。
- 医師、看護師及び薬剤師の確保対策として、欠員の採用と学生への奨学資金等貸与制度の活用を図ります。
- 安全な施設管理と快適な環境整備に努めます。

総括

初期臨床教育研修医受入実績

令和4年度 1人

令和5年度は、鹿児島大学から1人を受入予定

令和4年度奨学金貸与学生 新規6人、継続6人

昨年度は薬品費、診療材料費について原因分析を行い、抑制に努めました。本年度は更なる分析を行い、薬品や診療材料の適正化を図り、経営改善に努めていきます。

施設管理については、施設の巡回や定期点検を行い、不具合は早期に対応できましたが、大規模点検を要する設備の一部は実施できていないところもあり、課題も残りました。また、定期的な草刈業務及び施設清掃を実施して環境整備は適正に行えました。

スタッフ紹介

総務課長

総務企画係：	職員 5名	会計年度任用職員（事務補助）	4名
財政係：	職員 3名	会計年度任用職員（事務補助）	1名
管財係：	職員 3名	会計年度任用職員（事務補助）	8名

メッセージ

地域住民に安心と信頼を与えられる医療機関の事務部門として、医師や看護師等の病院職員の確保と働きやすい環境の整備、院内各部署との連携調整に努めています。

これからも、病院ホームページや広報誌を活用して情報発信してまいります。病院施設は建設後20年以上経過していますが、適正な点検を行い、メンテナンスを施しながら、皆様に安心して御利用いただけるよう努めます。

医事課

令和4年度活動目標

医事課目標：診療報酬の的確な算定による安定的な収益体制の維持

- ◆DPC制度など診療報酬制度の適切な運用による診療報酬算定
- ◆診療報酬の請求漏れ対策の強化、職員の資質向上
- ◆未収金の早期回収、法律事務所との連携推進
- ◆適切な診療情報の管理と情報発信

総括

医事課は、受付や計算・会計等の窓口業務及び保険請求業務を主とする部署です。それらの業務を通じ、安定した収益に繋げるため、近年益々複雑化する診療報酬制度をよく理解し、的確な診療報酬の算定をする事、及びその基礎となる診療録等の適切な管理をする事が私たちの役割です。

また、患者様に最初と最後に接する部署であり、「病院の顔」として重要な役割を担っています。

そのため、患者様には、親切で丁寧に、そして笑顔で接することを常日頃から心掛けています。

スタッフ紹介

医事課長 1名

外来医事係長 1名 入院医事係長 1名 情報管理係長 1名

外来医事係：職員2名 会計年度任用職員(医療事務)7名 (事務補助)5名 (集金員)1名

入院医事係：職員2名 会計年度任用職員(医療事務)3名

情報管理係：職員3名 会計年度任用職員4名

【資格認定者】

医療事務 19名

診療情報管理士 7名

がん登録実務初級認定者 2名

メッセージ

安定的な収益の確保・増加のためには、「患者増」と「診療単価増」がポイントであるが、地域の人口が減少していく状況において、「患者増」をすぐに実現するのは難しい。一方、「診療単価増」は比較的効果が期待できるものです。

したがって、年々複雑化する診療報酬制度において、受診患者の状況、施設や診療体制の変化を的確に捉えながら、「どう体制を整えれば新しい点数、高い点数を算定できるか。」を常に考え、情報発信していくことが大事であると考えています。

また、「病院の顔」の部署として、今後とも親切で丁寧な、そして笑顔での接遇に常日頃から心掛けていきたい。